

『非常事態宣言 1948—在日朝鮮人を襲った闇』

1948年4月、神戸で在日コリアンの民族教育を求める大きな運動がありました。「4.24 阪神教育闘争」と呼ばれています。この闘争に対して、1945.8.15～1952.4.28のGHQ占領下で唯一「非常事態宣言」が発令されました。金賛汀さんが、最新の資料をもとにこの問題に切り込んだ本を出版されました（新聞記事参照）。金賛汀さんをお招きしセミナーと開きます。ふるってご参加ください。

講師：ルポライター・金賛汀さん

キム・チャンジョン

講師プロフィール：1937年京都生まれ、ノンフィクション作家。朝鮮大学校卒業後、朝鮮総連系の雑誌記者を経て独立。主に在日朝鮮人問題、教育問題について執筆を続ける。『在日義勇兵帰還せず—朝鮮戦争秘史』『異邦人は君ヶ代丸に乗って』『朝鮮人女工のうた』『韓国併合百年と「在日」』など著書多数。

日時：2011年10月8日（土）

午後3時～5時

会場：神戸学生青年センター

（阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩10分
<http://ksyc.jp/map.html> TEL 078-851-2760）

参加費：600円

主催：朝日病院・神戸学生青年センター

連絡先：〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター（担当：飛田） TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/> info@ksyc.jp

※当日午後5時半より出版記念会を開きます。詳細は、学生センター飛田までお問い合わせください。



金賛汀著 非常事態宣言1948—在日朝鮮人を襲った闇

2011.7.10 神戸新聞

神戸発令の謎に迫る

米国側資料から解明

1948年4月21日、神戸に非常事態宣言が発令された。日本人の多くは、もう忘れていた。一方で、当時の神戸を知る在日韓国・朝鮮人に尋ねれば、きっと「体験談」を聞くことができる。

連合国占領下の日本で唯一となる非常事態宣言が、なぜ神戸で発令されたのか。本書はその謎を解き明かそうと、在日の戦後史に光を当てる。

終戦直後、日本各地で朝鮮人は学校をつくる。帰国を前に、植民地支配下で奪われたウリマル（私たちの言葉）を子どもに学ばせようとしたが、連合国軍総司令部（GHQ）は朝鮮人学校の閉鎖を指示する。「阪神教育闘争」と呼ばれる激しい抵抗が起きた。

神戸では朝鮮人の群衆が兵庫県庁に集結し、県知事から閉鎖の撤回を勝ち取る。その結果が、非常事態宣言だった。撤回は無効とされ、米軍と警察が千人を超す朝鮮人を無差別に拘束した。これまでの研究では、左



傾化する朝鮮人組織の弾圧がGHQの目的だった、などとされる。著者は別の見立てをする。神戸基地司令部の秘書だった米国人女性の日記と手紙を知ったのをきっかけに、南部朝鮮に目を向ける。冷戦下、親米反共政権の樹立を図り、米国の進める中絶選挙を目前に、左右勢力が衝突している。済州島では8万人とも3万人ともされる島民が惨殺された。

（宮沢之祐・東播支社）
（宮坂書店・2415円）

親米的な朝鮮人を含む朝鮮からの避難者を、米国は神戸で受け入れようとした。その際の安全を確保するための非常事態宣言だった。米国側の資料を丹念に調べた著者は、そう推し量る。

在日とは何か。京都生まれ